ACL再建術オールインワンパスを利用した転倒転落防止への取り組み

沼津市立病院クリティカルパス委員会
杉山友輝　後藤恵子　小野寺裕美
杉山玲子　服部美千代　下山勝仁

【はじめに】

- 平成19年4月よりACL再建術オールインワンパス稼動
- ACL再建術オールインワンパスは、バリアンス発生がなければ看護計画立案・SOAPの記載の必要性がない。
- 転倒転落の報告は、ACL再建術オールインワンパス患者にはない。
- 他パス使用患者で、転倒転落の報告が聞かれているが、転倒転落に関した看護計画の立案は徹底されていない。
- ACL再建術オールインワンパスを使用し転倒防止に取り組むことでスタッフ間の意識の向上を促し、大腿骨頸部骨折など転倒転落の多い症例に対し応用できると考えた。

【整形外科病棟入院患者】

＜平成20年度転倒転落件数＞

下肢手術患者	4件

増加

＜平成21年度転倒転落件数＞

下肢手術患者	19件

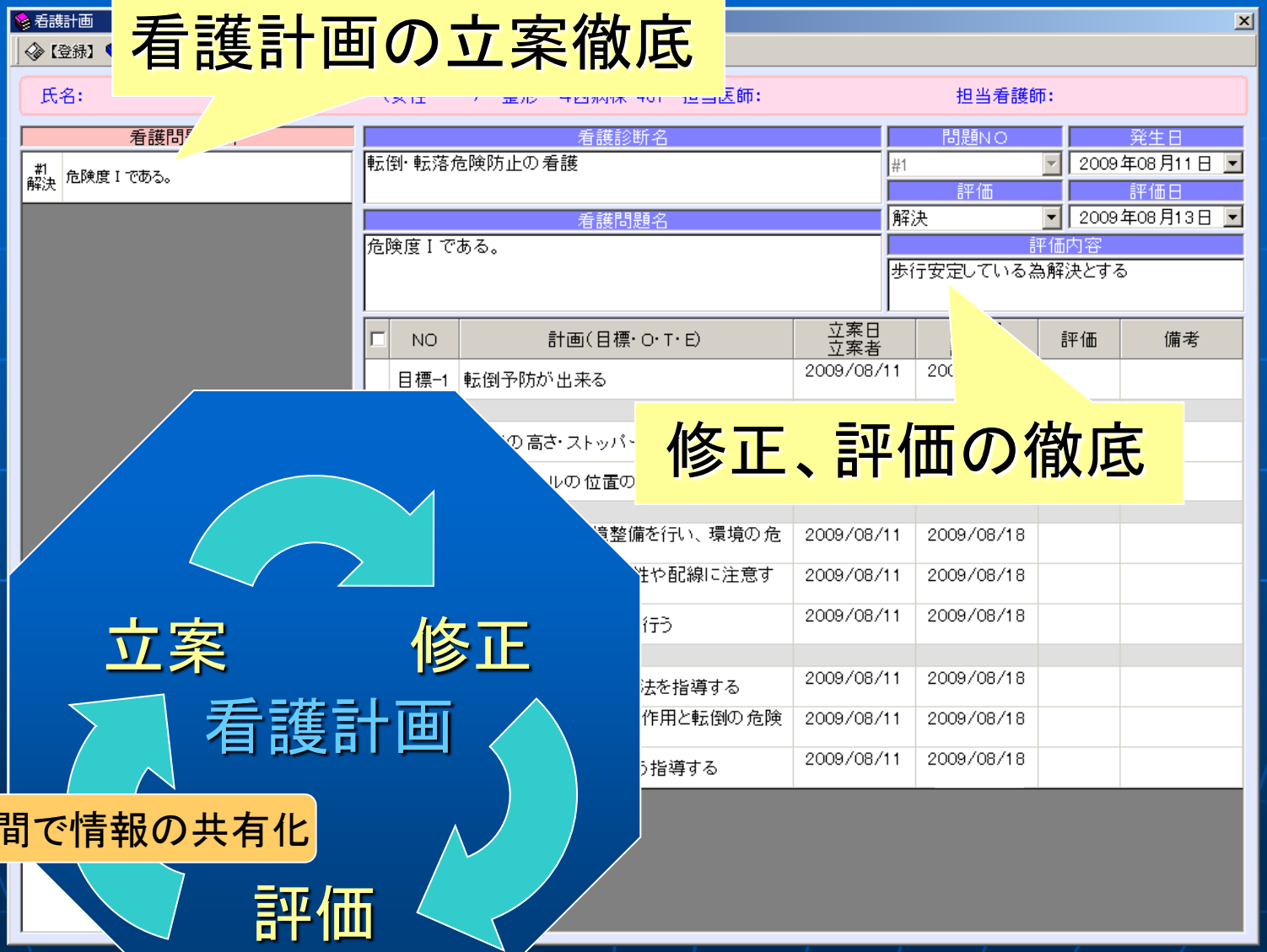
安全管理への取り組みが必要

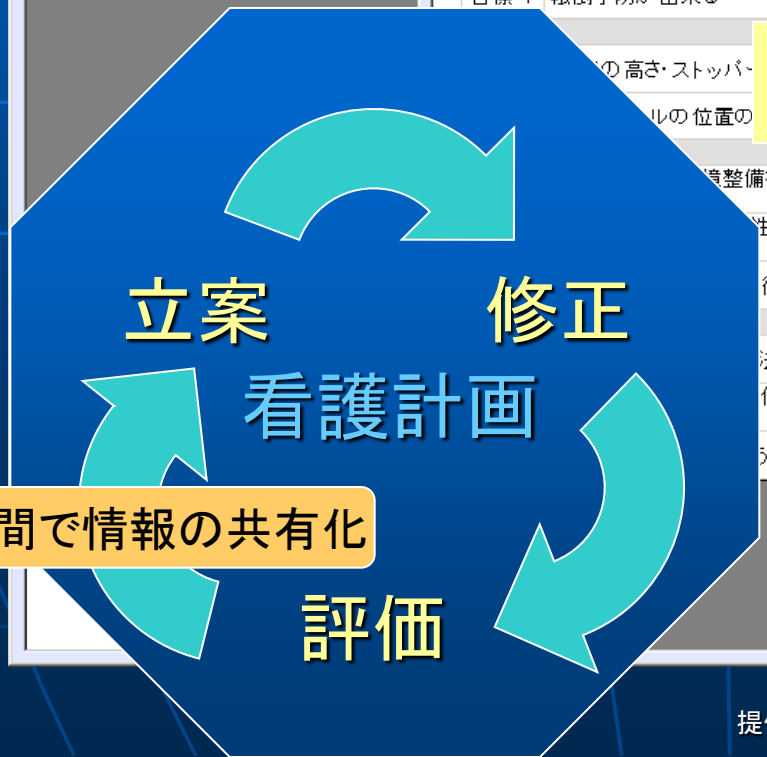
提供　沼津市立病院クリティカルパス委員会

【看護計画】

看護計画の立案徹底

修正、評価の徹底

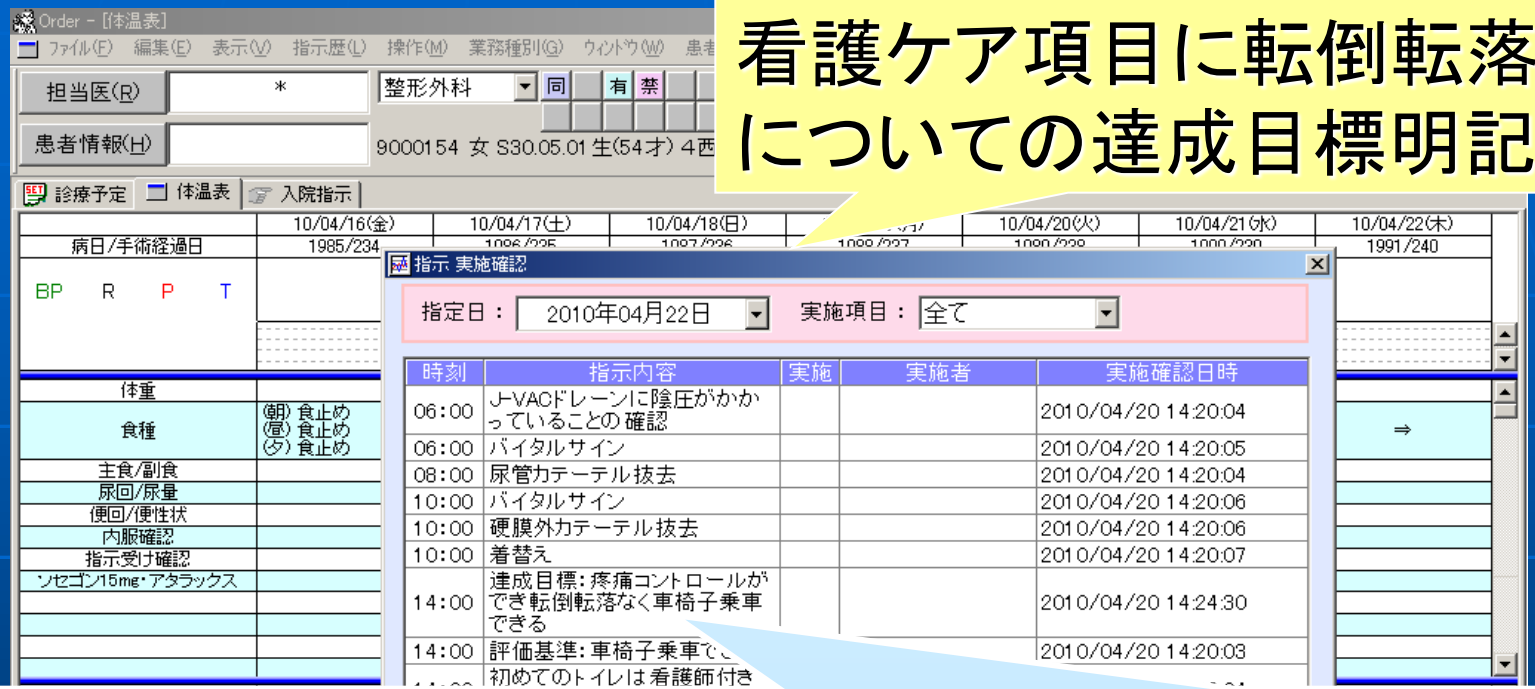




スタッフ間で情報の共有化

提供　沼津市立病院クリティカルパス委員会

【看護ケア項目追加】



看護ケア項目に転倒転落についての達成目標明記

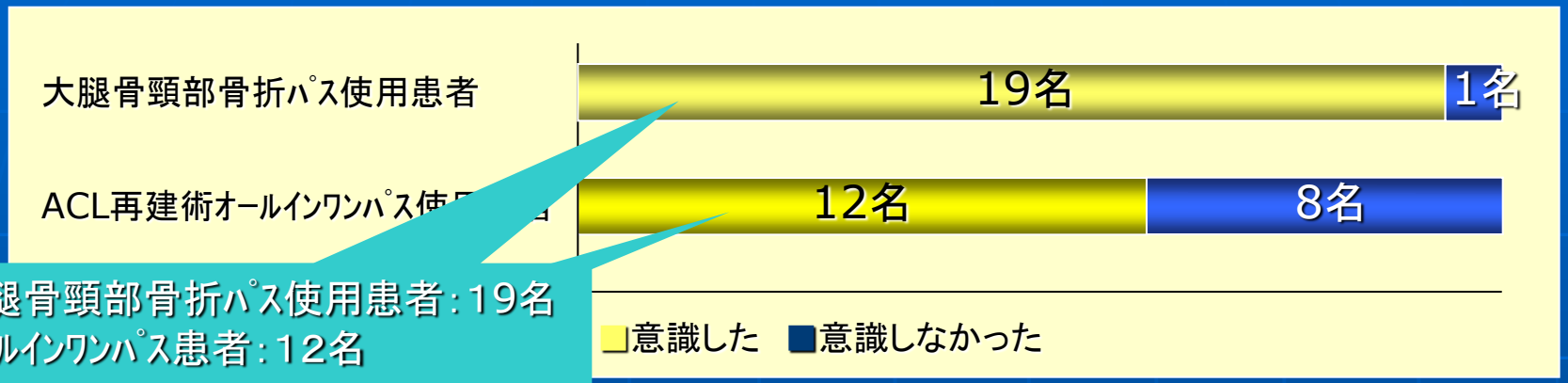
達成目標

術後1日目　疼痛コントロールができ転倒なく車椅子乗車できる
術後2日目　患肢免荷で転倒・転落なく松葉杖歩行できる
術後3~6日目　荷重制限が守られ転倒・転落なく松葉杖歩行できる
術後7日目　転倒・転落なく歩行することができる
術後8日目　合併症なく退院できる

提供　沼津市立病院クリティカルパス委員会

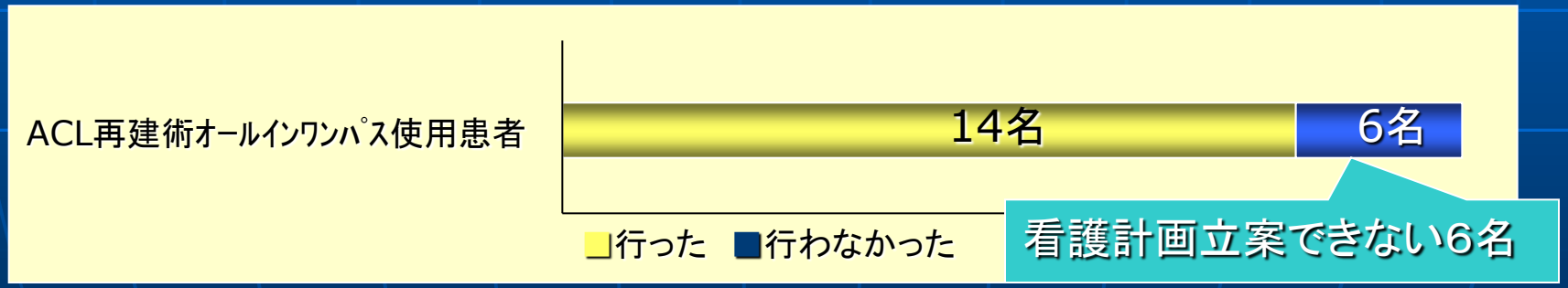
【実施前アンケート結果】

・転倒転落について意識したことがありますか？



大腿骨頸部骨折ﾊﾟｽ使用患者：19名
ｵｰﾙｲﾝﾜﾝﾊﾟｽ患者：12名

・危険な場面に遭遇後、患者の転倒転落など計画立案・修正・評価行ったか？



看護計画立案できない6名

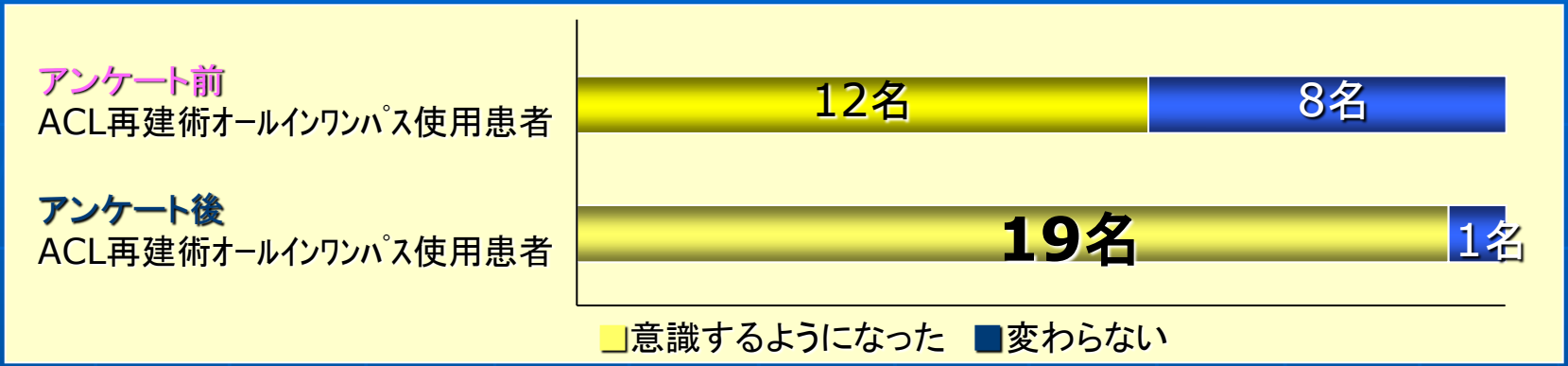
理由

自分の受け持ちでない　考えが及ばない
年齢が若くADL自立していると転倒転落の危険性について
あまり考えが及ばない　意識が低いから

提供　沼津市立病院クリティカルパス委員会

【実施後アンケート】

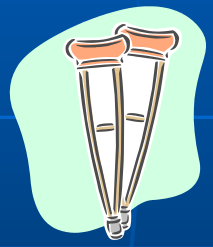
- 転倒転落に関して意識するようになりましたか？



・危険因子が明らかにできた
・転倒転落に対して意識するようになった
・スタッフの対応に変化

↓

・車椅子乗車・松葉杖歩行状態を注意して観察するようになった
・看護計画や達成目標をみて行動することで転倒転落の意識が高まった
・スタッフ間で情報共有できた
・チーム一丸となって転倒転落に対応することができた



今後他パス患者にも実施できると考えた

提供　沼津市立病院クリティカルパス委員会

【患者さんより】

危険因子が明確になることで積極的に声かけができるようになり

『松葉杖を使う時に転ばないように気を付けている』

『荷重かけすぎると靭帯が切れるって言われたから気を付けて歩行している』

などの意見が聞かれ

より具体的な注意点が明確となりケアが行いやすくなった

【総括】

- 転倒転落に対するスタッフの意識付けの向上がみられた。
- 患者自身が転倒に対して危険意識も見られるようになった。
- 大腿骨頚部骨折などの転倒転落の多い症例に対しても対応していきたい。